

チョウゲンボウ

ハヤブサ科で、体はハヤブサより一回り小さく、ほっそりしています。オスは、頭と尾が灰色で背が茶褐色をしています。メスは、背と尾が茶褐色で黒色の横班があります。「キッキッキ…」と高く鋭い声を出して鳴きます。

繁殖地は国内でも限られた場所で、長野県や山梨県の断崖で繁殖しているのが確認されています。また、最近では断崖に似ている高いビルやマンションのベランダ、橋桁などで繁殖していて、都市にも進出してきました。

富士市には、秋になると渡ってきます。農耕地・原野・川原を狩り場とし、昆虫、鳥、ネズミなどを食べています。木の梢（こずえ）や電線に止まり、餌を見つけると上空から襲いかかります。近くに高い止まり場がないと、ヘリコプターと同じように、一点に停止して地上の獲物を探します。これを、停空飛翔（ホバリング）と言います。



富士市の現状

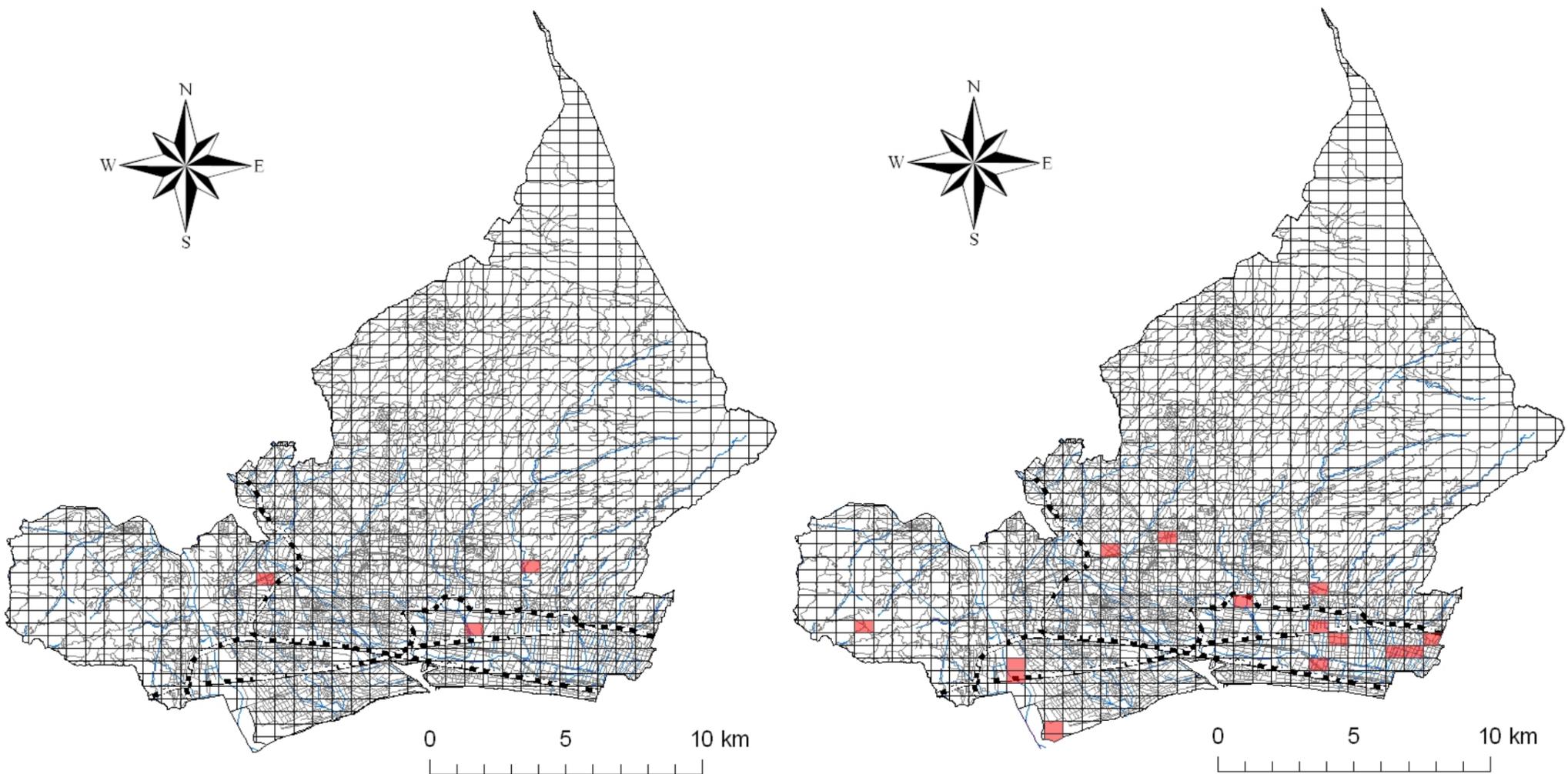
富士川や浮島の水田でよく見られます。秋に渡ってきた時には、主にバッタやイナゴなどの昆虫を餌としています。昆虫がいなくなると、小鳥やネズミなどを捕らえます。

須津地区の工場では、高い場所に設置された看板の中で繁殖したことがあります。富士市でも高層建築が増えてきているので、どこかのベランダや屋上で繁殖しているかもしれません。

チョウゲンボウを確認したメッシュ

夏

冬



※ 平成18年より調査しているため、日本測地系の2分の1標準地域メッシュを使用しています。